



帰山報告式を前に水行で身を清める当院副住職(左から二番目)ら。檀信徒がこれを見守りました

願 満

復刊第五号
2009年3月

身延別院発行
〒103-0001

東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

帰山報告式

副住職が第再行成満

寒雫百日 苦修錬行 成満の春。中山法華経寺の日蓮宗大荒行堂で第再行として入行していた身延別院の副住職、藤井教祥師が二月十日、百日間の修行を終えました。副住職は同寺祖師堂で成満会に臨んだ後、藤井教公住職や檀信徒らの出迎えを受けて無事に当院に帰りました。

この日、法華経寺の境内には、まだ夜が明け切らないうちから大勢の寺族・檀信徒が詰めかけ、赤、紫、緑と色鮮やかな成満旗が各所に並びました。午前六時、荒行堂の瑞門が開くと、百七十五人の荒行僧が俗界に姿を見せました。ぼさぼさの髪、伸びきった髭が百日間という月日を物語っていました。午前八時から祖師堂で成満会が始まり、荒行僧たちの誦する法華経の経文が境内にこだましました。

その後、荒行僧が寺族・檀信徒のもとに次々に戻り始め、副住職も元気な姿を見せました。その精かな顔つきは、百日前とは明らかに異なっていました。檀信徒の多くが、副住職の全身からほとばしるスピリッツを感じていました。

一方、二月二十二日には、身延別院で副住職の帰山奉告式が行われました。副住職をはじめ、荒行で成満を迎えた計十三人の荒行僧は檀信徒と共に十思公園を出発。一行はお題目を唱えながら、当院の周りを練り歩きました。荒行僧十三人による水行も行われ、大勢の檀信徒が息を飲んで見守りました。

(四、五面に特集)(平山)

御首題を いただく旅

第五回 札幌・本龍寺

市内最古のお寺

今回は札幌市の妙見山本龍寺を紹介しましょう。私の「御首題をいただく旅」は、『願満』一号で書きましたように、二〇〇六年五月五日に千葉・小湊の日蓮宗大本山、誕生寺を訪れたのが始まりでした。その後、知り合いの住職から、「四国八十八か所霊場めぐりや坂東三十三観音霊場めぐりなどがブームになっているけれど、日蓮聖人の教えを信仰する者にとっては、もっとすごいものがあるんだよ。それは『法華霊場千か寺まいり』と言って、日蓮宗のお寺などを千か寺参拝する修行だ。札所めぐりのように順番は決まっていなくても、自分自身でお寺を探し、訪ねていくんだよ」という話を聞かされました。初めはそれだけの会話に終わり、千か寺まいりのことなど忘れていましたが、「南無妙法蓮



一階のステンドグラスが印象的な本龍寺本堂

華経」の文字の美しさに取りつかれてお寺を訪ねていた私は、ひそかに「千か寺」を意識し始めました。ほどなく身延別院の藤井住職と出会い、ここで全国のお寺の情報をいただくようになり、信心を深めていったのです。一番参考になるのは、池上本門寺が一九五〇年代に刊行した「日蓮宗寺院大鑑」。全国の日蓮宗寺院の一覧で、旅に出るときはいつも身延別院でこれを見せていただくのです。初めての土地で、やみくもに日蓮宗寺院を探しても見つけれられません。前置きが長くなりました。

先日、札幌市の本龍寺を参拝したのも身延別院でいただいた寺院大鑑で調べておいたからです。通称「開運の妙見」。慶応三年(一八六七年)の創立で、札幌市内最古の寺院だそうです。御首題をお願いしたお上人がとてもユニークで、「そうですね、千か寺まいりですか。それじゃあ、張り切って書かせてもらおうかな」。参拝後に手渡された御首題帳を見ると、「Dream Far Away」と英語の文字が。いただいた御首題は六百を超えましたが、英文字表記は初めてのことでした。

後で藤井教公住職から聞いたのですが、本龍寺は、藤井住職が北大の学生さんと共に古武道の鹿島神流の稽古で、道場として毎週使わせてもらっているそうです。なんという偶然でしょう。驚いてしまいました。(平山 徹・新聞記者)



巖かに帰山奉告式



荒行僧による勇壮な水行



水行肝文を言上する荒行僧

檀信徒が百五十人

檀信徒さんがいつでも気軽に立ち寄ることができ、ほっと安らぐことができる、そんなお寺にするために私は歩んでいきたい。二月二十二日に行われた帰山奉告式で、身延別院副住職の藤井教祥師はこう誓いました。

中山法華経寺の荒行堂で第再行を達成した副住職の姿を見ようと、この日は百五十人もの檀信徒が当院を訪れました。一行は十思公園で副住職をはじめ十三人の荒行僧を囲んで記念撮影を行ったのち、お寺を中心とする小伝馬町一帯を練り歩きました。一行がお寺に到着すると、今度は荒行僧による水行に。

十三人の荒行僧は本堂の前に設けられた水盤の前に位置取り、経文を唱えた後、一斉に手桶でわが身に水をかけました。水しぶきは檀信徒のすぐ近くにまで飛び散り、その迫力が檀信徒の一人一人に伝わってきました。



水取りを着て檀信徒の前に姿を見せた副住職

「共に歩む寺に」と誓い



副住職が謝辞

水行の後は、本堂で帰山奉告式が行われ、第再行を成し遂げたことを証する許証が、東京東部修法師会会長の渡辺貫也僧正から副住職へ手渡されました。

また行僧を代表して、第五行全堂副代表の林貫恵上人は、「第再行というのは、行堂では初行の荒行僧を鍛え、自らも行に励む大変

厳しい立場にある。藤井副住職はそれを立派に成し遂げた。第再行で体得したものを檀信徒の皆さんに恩返ししてほしい。檀信徒の皆さんは、いつかまた副住職を第三行に送り出してほしい」と話しました。続いて東京都東部宗務所所長の鈴木良敬僧正をはじめ、来賓の僧侶の皆さんから祝辞が述べられました。

檀信徒の皆さんがいつでも立ち寄り、住職やお寺の家族といるいろいろな話をして、そこで皆さんが少しでも笑みを見せてくれたなら、安らぐことができたなら、それだけで存在する意義があると思っています。どうぞお寺に足を運んでください。そしてどんなことでも話してください。私はいつでも皆さんのためにあるのだと思っています」と謝辞を述べました。

十思公園を出発する行列
(写真上)

許証を受け取る副住職
(写真左)

謝辞を述べる副住職
(写真下左)

当院到着後、本堂前にて読誦する荒行僧
(写真下右)



寺の動き

節分会と星祭りに九十人

身延別院の節分会と星祭りが二月三日に行われました。毎年恒例の行事で、年男・年女の檀信徒さんが本堂から境内の参詣者に向かって、袋詰めにした豆を元気にまきました。この日午後一時から、本堂で節分会追儺式が行われ、檀



豆まきにはたくさんの人が集まりました

信徒九十人がご祈禱を受けました。今年はお天気にも恵まれたこともあり、午後一時五十分の豆まきの時刻までにはたくさんの参詣者が境内に集まりました。年男・年女の皆さんが「除災得幸 福は内」と言いながら、大きな枡から一斉に豆をまくと、参詣者は夢中になって受け止めていました。用意した八斗分の大豆も数分間でなくなるなど、今年も盛況でした。

この後、本堂では年男・年女の皆さんを中心に、豪華賞品の当たる福引が行われ、賞品を引き当てるとたびに大きな拍手が起こっていました。



年男年女の檀信徒さんらは福引抽選会を楽しみました

節分会の豆入れ奉仕

身延別院の檀信徒の皆さんが一月十九、二十日、節分会(豆まき)に用いる豆の袋詰めに取り組みました。身延別院ではまかれた豆を参詣者が持ち帰れるように、小さなビニールの袋に詰めています。八斗分のたくさんの豆を小さな袋に詰めるのは根気の要る作業ですが、檀信徒さんたちは会話を楽しみながら手分けして進めていました。豆入れ奉仕に参加いただいたのは以下の皆さんです。

阿久津喜美子、林好江、小島喜恵子、小林聡子、西原妙子、飯田望、石田光子、黒石鈴子、北村孝子、石渡日出子、田中京子、相羽泰則、寺久保トシ子(敬称略)。

ありがとうございました。

新年祈禱会に二百五十人

新年祈禱会が一月一日から三日まで開かれました。身延別院の新年最初の行事です。大晦日の午後十一時ごろから参詣者が訪れ始め、ご祈禱は元日午前零時の時報に合わせて始まりました。未明の午前二時ごろまで続けられ、いったん終了した後、午前八時から再び始めました。三日間で訪れた参詣者は約二百五十人に上りました。ご祈禱を終えると、藤井住職から参詣者一人一人におとそがふるまわれました。

荒行堂の副住職を見舞い

身延別院の檀信徒の皆さんが一月十一日、東京都葛飾区の題経寺(柴又帝釈天)と千葉県市川市の大本山・中山法華経寺を参拝に訪れました。参加したのは藤井住職、河野信成師はじめ檀信徒さんら計六十五人。一行はマイクロバス二台に分乗し、最初に題経寺を訪れ、本堂でご開帳を受けました。

続いて訪れた法華経寺では、荒行堂で修行中の藤井教祥副住職を見舞いました。荒行堂の周辺は、荒行僧を見舞うために各地から訪れた団体参拝客で混雑していました。やがて副住職は



荒行僧によるご祈祷を受けた後、行堂の前にて記念撮影

元気な姿を見せました。一行は荒行堂に案内され、多くの荒行僧に囲まれてご祈祷を受けました。カチカチという木剣の響きが前後左右からシャワーのように降り注いだのが印象的でした。



荒行堂で姿を見せた副住職

続いて市川市の総武霊園を訪れ、身延別院開山で身延山久遠寺第七十三世法主の文明院日薩上人と、身延別院初代住職で身延山久遠寺第八十六世法主の藤井日静上人のお墓参りをしました。

青年会からのお願い

青年会では子育て支援の活動費を集めるために、フリーマーケットに出店します。フリーマーケットで扱う品物(新品)をお譲り下さい。これまでに協力いただいたのは以下の皆さんです。青山芳江、永井忠弘、鈴木秀子、鈴木きみ、桑野千代子、石渡日出子、遠田光子、上野蘭子、亀谷洋子、岡本英一、池本国男(敬称略)。ありがとうございました。

今後の予定

- 三月十四日(土) 身延山東京本願人会主催
信行会 午後二時より
- 十七日(火) 二十三日(月) 春季彼岸会
二十三日(月) 彼岸会施餓鬼法要並大黒天祭
午後一時より
- 四月 一日(水) 願満祖師御開帳
八日(水) 花まつり 終日甘茶供養
十二日(日) 十三日講法要並法話
午後一時より

編集後記

桜の開花が間近な季節となりました。『願満』第五号をお届けします。今回は、藤井教祥副住職が日蓮宗大荒行の第再行を達成したことを記念し、これを特集しました。帰山奉告式の写真からも、荒行の厳しさが伝わってくると思います。

また、二月の節分会では、初めて子供さん向けの福引きも行われました。任天堂Wiiなど、景品が当たった檀信徒さんは大喜びでした。来年もたくさんの子供さんが参加していただけたら嬉しく思います。

次回発行はお盆過ぎを予定しています。どうぞご期待ください。(徹)